

アルプス

ALPS処理水について

知ってほしい3つのこと

誤った情報に惑わされないために。
誤った情報を広めて、苦しむ人を出さないために。

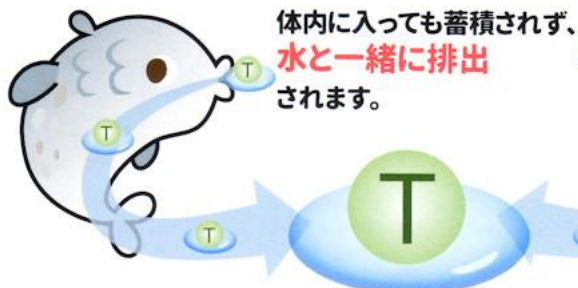
ALPS処理水とは、トリチウム以外の放射性物質が安全に関する規制基準値を確実に下回るまで多核種除去設備等で浄化処理された水のことです。

1 トリチウム(三重水素)は身の回りにたくさんあります

トリチウムは水素のなかまなので**水と一体**。
だから、**雨水、海水、水道水**などにはもちろん、**私たちの体の中にも存在**します。(注1)



2 トリチウムの健康への影響は心配ありません



トリチウムから出る放射線はとて弱いのので、**皮膚も通れません。**

β線は、空中では5mm、水中では0.005mmしか進めません



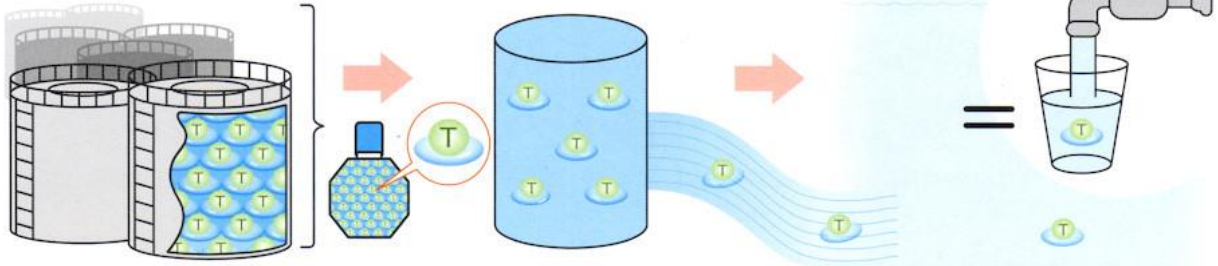
放射線は細胞を傷つけますが、細胞には修復機能があります。

注1) トリチウムの量 日本で1年間に降る雨：220兆ベクレル、海水や水道水：0.1～1ベクレル/㍉、人体：数十ベクレル
注2) トリチウムなど放射性物質による発がんリスクが高まるのは、多くの放射線を浴びた場合とされています。裏面に記載の放出方法により人が受ける放射線の量は、自然界から受ける放射線の10万分の1です。

3つ目は裏面で▶▶

それでも皆さんを不安にさせないよう

3 取り除けるものは徹底的に取り除き、 大幅に薄めてから海に流します



タンク(約千基)に貯められている
水は東京ドーム1杯分。
その中のトリチウムは
目薬1本分。

その上で、
100倍以上大幅に薄めます。
トリチウムの濃度は、WHO(世界保健機関)の
飲料水基準^(注3)の**1/7程度**になります。

海水中の
トリチウム濃度は、
水道水と同じ
レベルになります。^(注4)

トリチウム以外の放射性物質について、世界共通の安全性確保の
考えに基づき設定している規制基準を満たすまで**取り除きます**。

世界でも既に海に流しています^(注5)

世界中の原子力施設から、
各国の規制基準を守って
トリチウムが海や大気に
放出されています。

トリチウムが原因と思われる影響は
見つかっていません。

1年間のトリチウム放出量を東京電力福島第一原発(想定する最大量)
と比較すると、^(注6)
● フランス ラ・アージュ再処理施設 約 518倍
● 韓国 古里原発 約 4倍



出典:『世界の原子力発電開発の動向2020年版』(一般社団法人日本原子力産業協会)を基に復興庁作成

放出するALPS処理水は、放射性物質の分析に専門性のある第三者機関の
協力を得て**しっかりと検査**をし、その**結果を公表**していきます。

注3) WHOによる飲料水基準(トリチウム): 10,000^ベ Bq/L(リットル)

注4) 東京電力のシミュレーションによると、水道水のレベルを超えるところは、おおむね発電所近くの漁業制限区域に限られます。

注5) 東京電力福島第一原発で発生した汚染水には、トリチウム以外に原発事故由来の放射性物質が含まれますが、多核種除去設備等により世界共通の安全確保の
考えに基づき設定している規制基準を満たすまで取り除きます。

注6) 1年間のトリチウム放出量(液体) 東京電力福島第一原発(想定する最大量): 22兆^ベ Bq/年を下回るレベル
フランス ラ・アージュ再処理施設: 11,400兆^ベ Bq/年(2018年) 韓国 古里原発: 91兆^ベ Bq/年(2019年)

● さらに詳しく知りたい方はこちら

放射線について
「タブレット先生の福島の今」
(復興庁HP)



処理水について
「廃炉・汚染水・処理水対策
ポータルサイト」



復興庁
Reconstruction Agency
復興・創生 その先へ